

情報・経営専攻における地域交流

— 鳥取県三朝町との連携について —

三沢 英貴 (Hidetaka MISAWA)

植木 洋 (Hiroshi UEKI)

鳥取短期大学 生活学科 情報・経営専攻

1 緒言

鳥取短期大学（以下、本学）の学生は、その9割が鳥取県出身者であるが、学生自身の生活基盤である地域についての理解が乏しいと著者らは常々感じている。そこで、本学 生活学科 情報・経営専攻（以下、本専攻）では、著者らと三朝町企画課が中心となり、令和2年度より鳥取県三朝町（以下、三朝町）との連携を開始した。連携の目的としては、地域を素材としたフィールドワークを含むPBL型（PBL：Project（Problem）Based Learning）の学修を実施することで本専攻の学生の地域に対する理解を深めることであり、三朝町からも次の世代を担うであろう学生が地域の理解を深めることの大切さに賛同していただいた。連携の初年度である令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響からいく度となく連携内容の見直しが発生したため、その経験から令和3年度の連携の骨子について代替案も含めた検討を令和2年度中に三朝町と実施、新型コロナウイルスの感染状況に応じた連携を実施してきた。当然、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、当初の計画通りの連携とは言い難いが、本専攻としては、一定の成果が得られたと考えているため、令和3年度の連携内容について、本稿にて報告する。

2 連携の概要

当初は、本専攻の1年次前期の必修科目である「基礎演習A」において、三朝町と連携することを計画していた。「基礎演習A」とは、本専攻における初年度教育として読解力と論述力の基礎およびアサーションを含めたグループワークの基礎を指導する位置づけの科目である¹⁾。三朝町とは、グループワークの基礎を指導する部分（15コマ中7コマ）にて連携する予定であった。具体的には、三朝町温泉街でのフィールドワーク、フィールドワークの振り返りおよび三朝町温泉街の活性化を目的とした提案内容の検討、三朝町への提案の流れで実施する計画（表1）であったが、新型コロナウイルス感染症の影響から「基礎演習B」（1年次後期の必修科目であり、「基礎演習A」から継続してグループワークとゼミ学習を中心とした科目である）での連携へ移行した。²⁾ 後期の前半（10月～12月）は、新型コロナウイルス感染症の影響も少なかったため、一部連携内容を見直した上で実施することが可能であった。具体的には、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から三朝町温泉街のフィールドワークを中止、その代替案として三朝町からの講演（三朝町温泉街の街づくりと新型コロナウイルス感染症の影響に関する説明およびヴァーチャルツアーを活用した温泉街の見どころについて）を聴

いた上で、三朝町温泉街を例としたツアー案を検討するグループワークを教員指導の下で実施した(表2)。

表1 「基礎演習 A」にて実施予定であった連携内容

実施時期	コマ数	実施内容
令和3年5月	2	三朝町(企画課、観光交流課)の職員と地域おこし協力隊の協力の下で三朝町温泉街にてフィールドワークを実施。
令和3年6月	4	フィールドワークの振り返り(1コマ)、本専攻の教員指導の下で三朝町温泉街の活性化のための提案の検討(3コマ)を実施。
令和3年7月	1	本学会場にて、三朝町温泉街の活性化について、三朝町へのプレゼンおよび意見交換を実施。

表2 「基礎演習 B」にて実施した連携内容

実施時期	コマ数	実施内容
令和3年10月	1	三朝町(観光交流課、地域おこし協力隊)の協力の下、三朝町温泉街の開発計画と見どころについての講演を聴く。 藤井紀好氏:『三朝温泉の現在・過去・未来』 リエヴェン・アントニー氏:『町あるきヴァーチャルツアー』
令和3年11月 ～ 令和3年12月	5	フィールドワークの振り返り(1コマ)、本専攻の教員指導の下で三朝町温泉街を例としたツアー案の検討(4コマ)を実施。
令和3年12月	1	上記の内容を踏まえ、学生のグループ間の情報共有およびグループプレゼンを実施(学内関係者のみ)。
令和4年3月	1	三朝町温泉街を例としたツアー案について、三朝町へのプレゼンおよび意見交換を実施。 ★授業時間外の実施

3 具体的な連携内容

(1) 三朝町温泉街を中心テーマとした講演

令和3年10月26日、三朝町から講師として藤井紀好氏(観光交流課長)とリエヴェン・アントニー氏(地域おこし協力隊)の両名をお招きした。藤井課長には『三朝温泉の現在・過去・未来』と題して三朝町の街づくりの観点から温泉街を中心とした観光客数の推移やコロナ禍の影響を考えるためのキーワード(観光客としてのミドル層の落ち込み、観光先の分散化、来訪目的の変化やマイクロツーリズムの促進など)についてご講演いただいた(図1、図2)。特に三朝町の外国人観光客数の推移や宿泊者数における連泊者数の内訳など、データに基づいた説明は情報を学ぶ本専攻の学生にとっては大きな刺激となった(図3、図4)。また、大人数による詰め込み式のツアー形態から家族や個人で食と温泉を楽しむためにゆったり過ごす形態に変化してきていること、マイクロツーリズムの促進によって近隣化が進みつつあることの2点については最近の変化を強く感じる内容であった(図5)。リエヴェン・アントニー氏からは、三朝町の魅力(風景、お店、食、温泉と旅館)について、三朝温泉散策マップを例とした町あるきヴァーチャルツアー動画を用いてご講演いただいた(図6～図8)。当初の予定では、フィールドワーク実施の対象地域であった温泉街について、町あるきの視点に基づいたヴァーチャルツアー動画は、学生のみならず教員にも非常に分かりやすく、興味を深めるための工夫を強く感じる事ができた。



図1 藤井課長の講演の様子



図2 藤井課長への質問の様子

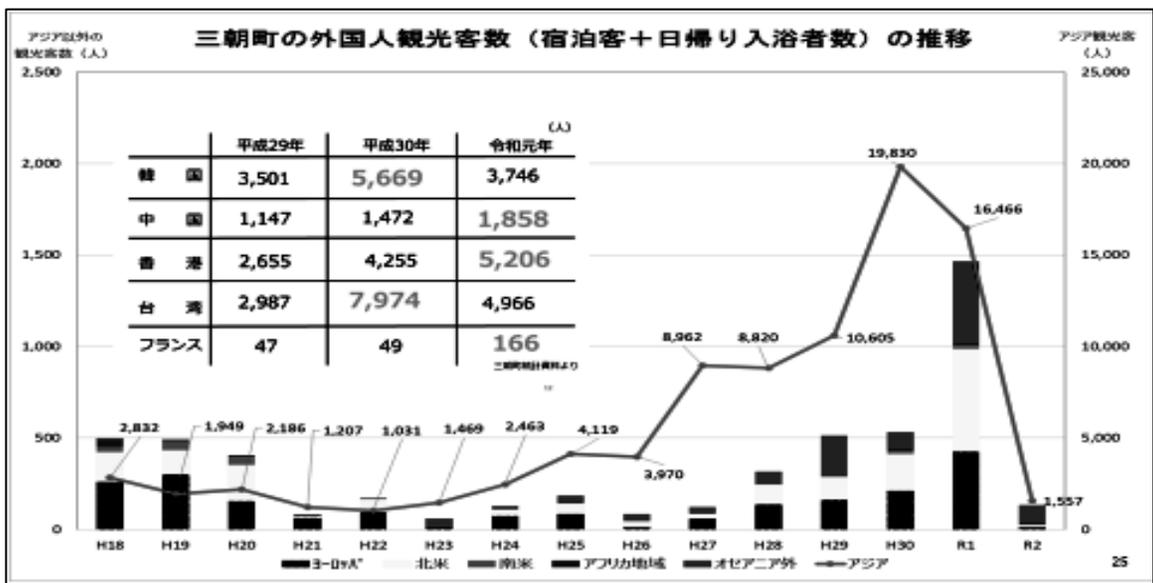


図3 三朝町の外国人観光客数の推移³⁾

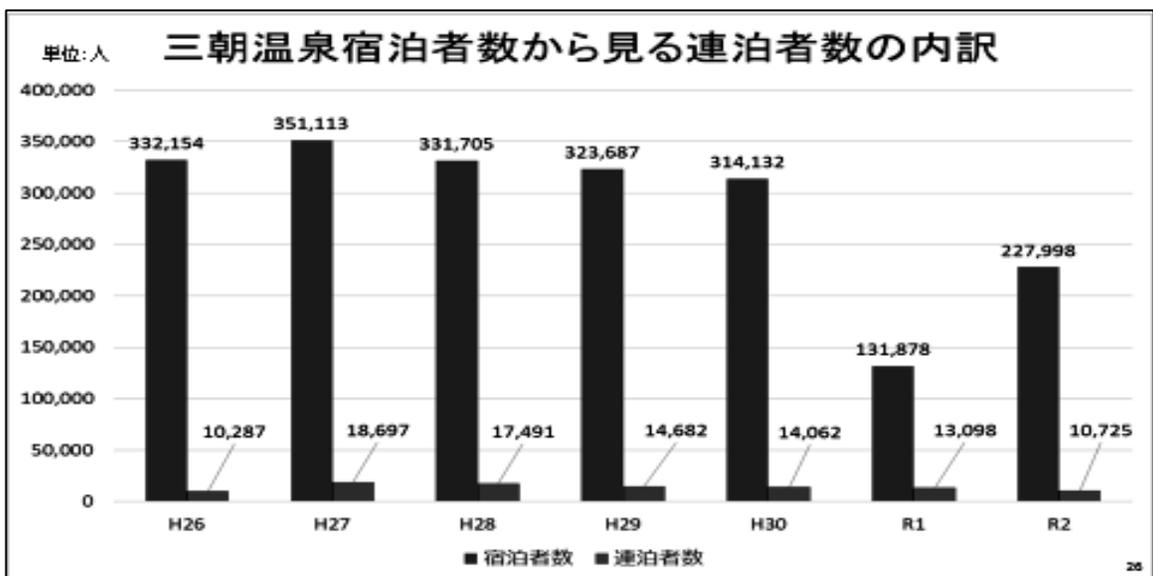


図4 三朝温泉の宿泊者数における連泊者数の推移⁴⁾



図5 コロナ禍の影響を考えるキーワード⁵⁾



図6 三朝温泉散策マップ⁶⁾



図7 アントニー氏の講演の様子



図8 アントニー氏への質問の様子

(2) 三朝町温泉街ツアーの検討

1) 検討方針とグループワークの実施

三朝町からの講演後、著者らが中心となって三朝町温泉街を例としたツアー案を検討するための方針を策定した。具体的なテーマを『秋の三朝町温泉街にて宿泊(1泊)込みの家族旅行ツアーの検討』とした上で、①街並みを含めた風景、②各種店舗・飲食・お土産、③温泉・旅館の3点を必ず取り入れることに加えて1人当たりの予算を3万円とする制約条件を課すことにした。①～③については、リエヴェン・アントニー氏の講演内容のポイントを参考に、予算については藤井課長の講演内容において鳥取県への宿泊旅行者の費用(1回あたり約4万6千円)の説明と『じゃらん宿泊旅行調査2021』の個人旅行交通費(約1万6千円)を算出根拠としている。⁴⁾ また、三朝町としては図4にあるように連泊に注目している状況でもあるが、授業時間の余裕を考慮して今回は1泊とした。以上の指導内容をベースとして、本専攻の全専任教員がファシリテーター役を務め、授業内にてグループワークを実施、KJ法と情報機器を活用した情報収集(費用、移動時間、食事場所、宿泊施設など)を行いながら具体的なツアーの組み立てを行った(図9、図10)。グループワークは新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、全9グループを2会場に分割して配置、ファシリテーター役の教員3名ずつを各教室に配置する形式で実施したことを付け加えておく。



図9 グループワークの様子1



図10 グループワークの様子2

2) 得られたツアー2種の比較

検討した複数のツアーの中から特徴的なツアー2種の概要を表3と表4に示す。表3のツアーは、親孝行をコンセプトとしつつも現実的な予算が大前提となって計画されていることが分かり、安定的なツアーであると考えることが出来る。他方、表4のツアーは予算超過となっているものの家族旅行ツアーにおける夫婦の語らいをコンセプトの中心に設定し、非常に強く打ち出されていることが分かる。同じ家族旅行ツアーをテーマにしつつも何を重視するかによって、ツアーの内容が大きく変わってくる事が分かる。授業では、他にも複数のツアーが検討されたが、前項にある予算の制約条件外のツアーは表4のみであり、複数の教員が複数のグループを巡回しつつ指導したことが興味深い結果につながったと考えている。

表3 親孝行ツアー（表中の費用は1人当たり）

	時間帯	12時	12時40分～13時半	13時45分	14時半	15時	16時以降
初日	場所	渓泉閣 チェックイン	ふるさと健康むら	藤井酒造	松之屋	泉娯楽場	渓泉閣にて宿泊
	目的	冬の味覚	ラードン麺	地酒、土産	とちもち、土産	昔ながらの遊戯	夕食、温泉
	費用		¥700	¥8,000	¥1,000	¥1,500	¥13,100
	時間帯	10時	10時15分～11時15分	12時～12時40分	13時	13時半～	
翌日	場所	渓泉閣 チェックアウト	小鹿溪	かじか亭	ぼちゃぼちゃ	帰宅	
	目的		紅葉	お得な日替わり定食	土産		費用合計
	費用			¥1,000	¥3,000		¥28,300
	時間帯						

表4 三朝ロマンティックツアー

	時間帯	10時半	11時	13時15分	14時	15時	19時	19時半	20時
初日	場所	倉吉駅	三徳山	谷川天狗堂	カフェ橙	清流荘 チェックイン	泉娯楽場	恋谷橋	清流荘
	目的		紅葉	山菜うどん 天ぷら	夫婦でとちもち パフェを半分こ	希少なサウナ 源泉かけ流し	懐かしい気持ちを 味わえる	夫婦で語らう	夕食、温泉
	費用			¥1,500	¥850	¥19,000	¥1,500	¥350	
	時間帯	9時	9時05分	10時	10時半～				
翌日	場所	清流荘 チェックアウト	ふるさと健康村	藤井酒造	倉吉駅				
	目的		陶芸体験 三朝みすと	お酒、土産					費用合計
	費用		¥4,700	¥3,000					¥30,900
	時間帯								

4 三朝町への報告および意見交換

前述のように三朝町との連携計画では、後期の授業期間中に作成した三朝町温泉街を例としたツアー一案のプレゼンテーションおよび意見交換会（以下、意見交換会と略す）を3月に実施する予定であった。しかし、1月半ば以降、鳥取県内においてオミクロン株による新型コロナウイルス感染症が急拡大したことによって、本学でも1月下旬から2月中旬までできるだけ対面式を避けて授業、試験等を実施することになった。その影響を受け、当初3月初旬に予定していた意見交換会を3月中旬に延期せざるを得なくなった。また、延期後も状況が改善しない場合、著者らが学生の提示したツアー案を取りまとめた報告書を作成し、三朝町に報告することでその代わりとすることも想定していた。しかし、幸いにも3月上旬以降、感染拡大状況に落ち着きが見られたこと、同時期に他の授業では学生が登校していることなども踏まえ、3月14日に対面式で意見交換会を実施した。

当日は、松浦三朝町長をはじめ講師としてご協力いただいた藤井課長やアントニー氏を含む6名の方にお越しいただき、学生によるプレゼンテーションへの意見・感想及び質問をいただいた。

発表は、感染対策として意見交換会が長時間におよぶことを避けるため全9グループのうち評価の高かったところを中心に3つのグループに絞って行ってもらった（「三朝ツアー2」、「親孝行ツアー」、「三朝町ファミリーツアー」）。なお、春休み期間中で学生の都合がつかない等の理由で各グループとも1名ずつの代表者による発表となった。彼らにとっては久しぶりということもあり、午前中から模造紙および原稿の修正に取り組むなど改めて準備を整えてから発表に臨んだ（図11）。

プレゼンテーションを受け、三朝町からご参加いただいた皆様からは、活舌良く聴きやすい発表であったこと、各グループともコンセプトが明確であること、模造紙にイラストなども取り入れることで見やすかったことなど学生に温かい言葉をかけていただいた（図12）。

一方で、今回はフィールドワークを実施する機会がなかったため、講演時の資料やインターネット上の情報のみでツアーを考える必要があった。そのため、各ポイントへの到達時間やそでの所要時間などが現実とずれていることや、既に閉店している店舗が紹介されているといった点が指摘されていた。また、観光の方向性として体験型観光が嗜好されていることを踏まえたツアーの開発をといった声も挙がっていた。いずれの場合も、学生が提示したツアーへの建設的な方向での改善の提案であった。さらに、会場からは若い世代の消費行動を知る目的で「ロコミ」の大事さに関する質問や、今回のツアーの中に三徳山に足を延ばすプランが無かったことに対する理由を尋ねる質問が出された。これに対し学生からは自身の経験を踏まえた発言や、グループの見解を回答するといったシーンが見られた（図13、図14）。

最後に、町長からは、費用と時間を制約したツアーを学生が提示したことで、実際に観光客がとる行動を想定することのできるものであると好意的な評価をいただくことができた。



図11 代表学生によるプレゼンテーション



図12 三朝町関係者からの講評



図 13 質問に回答する学生①



図 14 質問に回答する学生②

5 結言

本稿では、令和3年度における本専攻と三朝町との連携について報告した。卒業後、多くの学生が県内にて活躍している実情からも、地域を素材として地域理解を深めることを狙いとしている本連携には、非常に大きな意義があると感じている。当然ながら次年度の連携についても継続する予定であり、過去2年間において新型コロナウイルス感染症の影響によって中止となったフィールドワークの実現に向けて力を注いでいきたい。また文末ではあるが、令和2年度に講師をお引き受けいただいた松浦弘幸町長をはじめとして、藤井紀好氏、リエヴェン・アントニー氏、三朝町企画課の方々へ深く感謝の意を込めつつ、本稿を締めくくりたい。

《注》

- 1) 『基礎演習 A シラバス (令和3年度)』は下記アドレスから検索可能である。
<https://portal.cygnus.ac.jp/cygnusweb/syllabus/se0010.aspx?me=EJ&opi=mt0010>
- 2) 『基礎演習 B シラバス (令和3年度)』は下記アドレスから検索可能である。
<https://portal.cygnus.ac.jp/cygnusweb/syllabus/se0010.aspx?me=EJ&opi=mt0010>
- 3) 藤井紀好氏による講演スライド24ページより引用した (2021年10月26日 施：鳥取短期大学)。
- 4) 藤井紀好氏による講演スライド25ページより引用した (2021年10月26日 施：鳥取短期大学)。
- 5) 藤井紀好氏による講演スライド30ページより引用した (2021年10月26日 施：鳥取短期大学)。
- 6) リエヴェン・アントニー氏の講演時配布資料より引用した (2021年10月26日 施：鳥取短期大学)。

《参考文献》

- (1) 『じゃらん宿泊調査 2021』じゃらんリサーチセンター, 2021年7月8日
https://jrc.jalan.net/surveys/accommodation_travel/